

事務事業名	市民研究員養成事業	事業期間	2013 ~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係（八ヶ岳総合博物館）	連絡先	73-0300	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0304	産学公民連携の推進		

予算事業名	市民研究員養成事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	08	事業	06
-------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市民研究員養成事業は、博物館活動などに関心をもつ人に対して、地域の自然史研究や科学教育の振興などを担う市民を育成・支援するもので、調査研究を学芸員と共に進め、博物館活動を活発にしていけるものである。一層の参加を促していく。

現状と背景
(どうして)
現在の博物館の職員数、学芸員数では地域の自然資料を調査収集できるものではなく、市民に力をつけていただき、その力を借りて、これらの博物館活動を推進し、活発化させるため実施する。

目的
対象
受益者
(誰のために)
博物館を利用する一般市民。
対象
(直接働きかける)
博物館を利用する一般市民。
博物館のテーマである茅野市の自然、文化、歴史、産業、民俗に関心のある一般市民。
意図
(どんな状態にしたいか)
市民の博物館活動を支援し、それを広げていく。

手段・方法
(どうやって)
市民研究員を養成する講座を開催し、調査実習活動や講演会に参加し、課程を修了した方に市民研究員認定証を交付する。認定者は、グループ活動の中で講師をサポートする。また、提案が認められると新たな学習分野を立ち上げることができる。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	市民研究員養成講座の開催	開催回数	回	養成講座の開催回数	120
	2						
	3						
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	市民研究員養成事業への参加	参加者数	人	養成講座への参加者数（実質人数）	100	
	2	学習分野が増える	学習分野数	グループ	学習分野数（グループ数）	10	
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	483,738	1,238,073	1,449,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	483,738	1,238,073	1,449,000		
活動指標	開催回数	目標	72	84	84		
		実績	107	111			
		達成率	148.61	132.14	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-	-	-	-	-
成果指標	参加者数	目標	72	73	73		
		実績	79	95			
		達成率	109.72	129.60	-	-	-
	学習分野数	目標	10	7	7		
		実績	6	7			
		達成率	60.00	100.00	-	-	-
備考	学習分野数…2016年度、5グループ（植物、きのこ、シダ、実験工作、天文）。2018年度、語り伝承が発足し、6グループ。2019年度、コケグループが発足し、7グループ。（植物、きのこ、シダ、コケ、天文、実験工作、語り伝承）						

事務事業名		市民研究員養成事業		事業期間	2013 ~	年度		係内番号	04	
担当部署		生涯学習部		文化財課		博物館係 (ハヶ岳総合博物館)		連絡先	73-0300	
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	変果動指要標因分	養成講座第2期(3年)は、2016年4月、5グループ・63人でスタートし、第2期終了時点(2019年3月)で、6グループ・79人となった。参加者を1年に約3人増加させたいとの目標であるので、目標は達成した。また、学習分野は1グループ増えた。 2019年度からの第3期は、さらに1グループ増え、7グループ・70人でスタートする。2019年度、重点取組事業。	第3期1年目開始時は、70人の参加があり、その後、広報や知人からの紹介等により、年度末には95人となった。社会教育推進計画では、参加者を1年に約3人増加させたいとの目標であるので目標は達成した。							
	成果	市民研究員の活動により、調査研究、資料収集保管、教育普及といった博物館活動が推進されている。(植物系のグループにより標本資料が、語り伝承グループにより口述記録が蓄積されている。実験工作、天文グループにより博物館の講座が運営されている。) 2018年度の養成講座の延べ参加者数は696人にのぼる(2018年12月)。	市民研究員の活動により、調査研究、資料収集保管、教育普及といった博物館活動が推進されている。 2019年度の養成講座の延べ参加者数は859人にのぼる(2020年2月)。 ・ちのを纏む みんなのサロン「興味を活動に！市民研究員」が博物館で開催され、13人の参加があり、うち2人が受講申込みをした。 ・市民研究員の活動を紹介するピーナチャンネルの番組が完成した。(シダG、実験工作G)							
	課題	・市民研究員がその活動の成果を発揮する機会を増やす必要がある。(例えば、植物グループ主体の自然観察路の観察会の開催) ・調査研究のための書籍や機材については、要望をお聞きしながら検討する。 ・2018年度末に、新たに指導者が必要になった。(謝礼が必要) ・グループ数の増により、土日に部屋が不足する状況がある。(現状、調整可能)	市民に、市民研究員の活動状況等を紹介していく必要がある。 市民研究員がその活動の成果を発揮する機会を増やす必要がある。							
改革	成果	拡充	現状維持							
	コスト	拡大	現状維持							
改善の方向性	改善の方向性	・市民研究員養成講座をPRし、参加者を増やす。 市民研究員の活動を紹介するよう、コーナーを設置する。(自前) 市民研究員対象の講演会、観察会などを市民に案内し、「市民研究員」を知ってもらう機会とする。 市民研究員とともに実施する観察会などを検討する。 ・語り伝承グループ活動記録集分が減額となるが、指導者の謝礼の増があるので、拡充・拡大とする。	市民研究員養成講座をPRし、参加者を増やす。 ピーナチャンネルの番組等を通して、市民研究員を紹介していく。							
	改善の方向性									
改善の方向性	改善の方向性									
	改善の方向性									
	改善の方向性									
作成担当者	渡辺真由子		柳川英司							
最終評価責任者	両角勝元		五味健志							
最終評価年月日	元. 5. 17		2020年7月3日							

事務事業名	特別展等事業	事業期間	1988 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係（ハヶ岳総合博物館）	連絡先	73-0300	

政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
		基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
		実行計画	01	社会教育推進計画	0302	博物館事業の充実		

予算事業名	特別展等事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	08	事業	08
-------	---------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)

教育普及・展示会は博物館の使命の一つである。市民に多くの教育機会を提供し、魅力的な展示会を開催していく。本事務事業は、従来5つに分かれていた下記の事務事業評価を統合したものである。
①「常設展・特別展開催事業」②「講演会・研究会・講習会開催事業」③「こども科学クラブ事業」④「学校支援事業」⑤「観望会事業」

現状と背景
(どうして)

常設展示だけでは、多くの市民が集う活発な博物館にはならない、多くの教育機会を提供し、展示会を開催することで博物館は活性化していく。

目的

受益者
(誰のために)

市民全体及び来館者。

対象
(直接働きかける)

同上

意図
(どんな状態にしたいか)

向学心を持つ市民に対し多くの学習の場を提供し、様々な市民を知的に刺激する展示会を開き、最終的に来館者を増加させる。

手段・方法
(どうやって)

資料を展示し、チラシ・パンフレットを作成し広報をする。また、図録を作成する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	特別展などを実施する。	事業実施率	%	特別展、企画展、講演会、講座などの実施数÷計画事業数×100
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	%	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	年間入館者数が増加する。	年間入館者数	人	年間入館者数
	2					
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	586,817	1,711,451	1,415,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	586,817	537,600	491,000		
	一般財源	円		1,173,851	924,000		
活動指標	事業実施率	目標	100	100	100		
		実績	100	96			
		達成率	100.00	96.48	-	-	-
	-	目標	-	-	-	-	-
		実績	-	-	-	-	-
		達成率	-	-	-	-	-
成果指標	年間入館者数	目標	16,000	16,500	16,500		
		実績	17,715	16,529			
		達成率	110.72	100.18	-	-	-
	-	目標	-	-	-	-	-
実績		-	-	-	-	-	
	達成率	-	-	-	-	-	

備考

2018年度の計画事業数は588。別途、開館30周年記念事業（事業数33）を行った。従前の特別展等事業の予算の大部分が開館30周年記念事業に移行した。2019年度の計画事業数は511。このほか、モバイルプラネタリウムの未館投影、出前投影が見込まれる。近年の年間入館者数と特殊要因の有無。H27・12,150人、H28・13,445人（モバイルプラネタリウム導入）、H29・16,520人（雨予約による入館者の増）、H30・17,715人（開館30周年記念事業実施）。2018年度の特定財源は講座受講料287,800円+小冊子等売上収入322,600円=610,400円あり、事業費586,817円を超えるため、差額23,583円は他の事業費に充当される。なお、特定財源610,400円のうち287,800円は、開館30周年記念事業によるものである。2019年度の事業実施率の実績は、計画事業数511、実施事業数493で、18の事業が新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった。

事務事業名	特別展等事業	事業期間	1988 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係 (ハヶ岳総合博物館)		連絡先	73-0300

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	開館30周年記念事業を実施したことから、従前、この事業の多くを占めた特別展や企画展は記念事業で実施し、2018年度のこの事業は、例年行っている観察会、講座などが中心となった。記念事業と相まって、前年度以上の入館者、受講者があった。	2018年度の実績17,715人は特殊要因(開館30周年)によるものであるため、2019年度の目標は16,500人とした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、実績は16,529人にとどまった。			
価値	成果	・知的好奇心をもつ市民に対し、多くの学習の機会を提供し、それぞれの分野について深めてもらえた。博物館にも、親しんでもらえた。 ・企画展を通じ、地域の貴重な記録を「甲斐駒開山 小尾権三郎」と「写真で見るとかしの茅野市」の図録を出版でき、多くの方が学習のため購入した。	・企画展「坂本養川と郷土の人々の暮らし」では、常設展を補充し、かねてから要望のあった、坂本養川と郷土についてわかる図録を刊行した。 ・企画展「徳州哺乳動物研究の先駆者」では、ネズミなどの研究で知られる両角徹郎さんと両角重義さんの研究にかけた熱意や業績を紹介した。 収蔵資料やゆかりの資料を増え、講演会、ギャラリートークなどを開催し、多くの方々に観覧いただき、地域の歴史や自然について学んでいただく機会とした。また、関係資料の調査研究により、来館者向けの図録やパンフレットを整えることができた。			
	総合評価	・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習の機会を提供していく必要がある。・企画展の開催は、地域の資料を展示公開し、市民に学習の機会を提供するとともに、資料などを調査研究し、図録としてまとめ公開していく機会でもある。こうした経費が企画展開催には欠かせない。・2020年度は、自然系と歴史系の企画展、関連イベントを実施する計画である。	社会の動向と市民ニーズを捉え実施し、多くの学習の機会を提供していく。 埋もれた地域の自然や文化を掘り起こし、提示するなどの事業に取り組みるように、事業費を確保していく必要がある。			
課題	課題					
	課題					
改革	成果	現状維持	拡充			
	コスト	縮小	拡大			
改善の方向性	改善の方向性	・記念事業を機会に、新しいメニュー、利用者の選択肢(地域観察会、毎月お楽しみ会、プラネタリウム特別投影、アンコールイベント、自然観察路)を生み出したので、学校団体などに利用してもらうよう、広報などでPRしていく。 ・市民研究員の協力を得て、観察会などを計画する。(例えば、植物グループによる自然観察路の植物観察会) ・講座の受講者増を目指し、講座終了時に次回講座の案内をする。 ・調査研究の成果を市民に提供するための事業費を現時点で把握し、縮小とする。	・企画展を年度内で3回行い、入館者増を図るために拡大とする。また、企画展の時に、図録を刊行するために、予算の増を要求する。 ・市民研究員の活動を、現在の調査・研究以外の、教育・普及活動や、館活動の補助などを行うために、拡大する。 ・学校へ館長が出向き、博物館利用を働き掛ける。			
	改善の方向性					
内容	策					
	容					
	策					
作成担当者	両角英彦	柳川英司				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	資料収集・保管事業	事業期間	1988 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係（八ヶ岳総合博物館）	連絡先	73-0300	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0301	博物館の運営と機能の維持		

予 算 事 業 名	資料収集・保管事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	08	事業	04
-----------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
自然や歴史・民俗などの資料を収集・保管し、活用する。

現状と背景
(どうして)
地域の自然や文化が自然環境の変化や開発、生活の習慣の変化により失われていく。

目的
対象 受益者 市民全体
対象 市内を中心とした自然や歴史などの文化財
意 図 次世代へ資料や文化を引き継ぐ。
(どんな状態にしたいか)

手段・方法
(どうやって)
博物館職員が、資料の収集・保管を日常業務として行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	どのくらい資料を収集するか	所有資料数	点	年度末における所有資料の総数
		2				
		3				
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	収蔵資料の台帳化	台帳化率	%	所有資料数÷台帳化数×100
		2				
	変更履歴					

実 施 状 況	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			3,018,775	101,377	3,364,000		
財 源 内 訳	事業費等(a)	円					
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	3,018,775	101,377	3,364,000		
活 動 指 標	所有資料数	目標	点	50,300	50,300	54,000	
		実績		50,282	52,607		
		達成率	%	99.96	104.59	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成 果 指 標	台帳化率	目標	%	100	100	100	
		実績		8	4		
		達成率	%	8.00	4.00	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備 考	1年おきに展示室・収蔵庫の燻蒸を実施するため、事業費に増減がある。						

事務事業名	資料収集・保管事業	事業期間	1988 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係 (ハヶ岳総合博物館)		連絡先	73-0300

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	析	・平成30年度は、開館30周年記念事業が多く、時間的・人的余裕がないため、資料整理がほとんどできなかったため、達成値は低い。	・企画展等事業量やその他事務量が多かったが、1月以降集中的に整理作業を行い、達成値を超えることができた。		
価値	成果	・本年度に整理した主要な収蔵資料は図書類であるが、図書の検索は、引き続いてしやすくなっている。	・本年度に整理した主要な収蔵資料は古文書類である。第一収蔵庫の古文書整理は、大分目途が立ってきた。			
	課題	・古文書や寄贈された民俗資料を、台帳化していかなければならないが、時間的・人的余裕がないため、平成30年度はほぼ作業ができなかった。作業ができないと、今後の企画展などの展示に支障が出る。	・昨年度同様、民俗資料の台帳化はできなかった。早急に古文書の整理を終了しなければならない。			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性	改善の方向性の内容	・当面は、博物館学芸員が、ノルマをもって、整理作業を行っていく。 ・2020年度は、燻蒸を行うので、拡充・拡大とする。	・当面は、博物館学芸員が、ノルマをもって、整理作業を行っていく。 ・本年度以上に古文書の整理作業を推し進めるために、拡充・拡大とする。			
策	策					
作成担当者	柳川英司	柳川英司				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				